

【提案内容 2】

犬山市野外活動センターの利活用計画

<名 称>

犬山市栗栖地区エリア戦略

<コンセプト>

栗栖地区の将来に向けたエリア戦略として

第1弾は、『知る』『見る』『遊ぶ』をコンセプトにします。さらに、今まで犬山市や栗栖地区に訪れたことがない層を開拓していくことをコンセプトに入れこみ、戦略を展開します。

第2弾として、農業体験、移住体験、アウトドア体験施設を構築する「里山づくり」をコンセプトとします。

<第1弾の利活用概要>

- 現在の犬山市野外活動センターをベースセンターとして、オートキャンプ利用者のサービス提供の拠点施設にします。
- RVのキャンプ場への投資には大きな費用はかかりませんが、野外活動センター管理棟のリノベーションが必要になります。
- 構造物が設置できない河川敷のデメリットをクリアするため、現在のアウトドアブームの中、進化系であるRV車で宿泊可能なオートキャンプ専用キャンピング場を提案します。昼間はRV車の横でテントやターフで過ごし、夜間は車内で寝ることができる、今人気のアウトドアの過ごし方で、大人から子ども・女子だけでも安心・安全に楽しめます。
- アウトドアイベントを運営している提案者のネットワークがあることから、会員やRVメーカー関係者、RV協会とのネットワークを生かし、早期の利用者誘致が可能です。

<第1弾の事業フレーム>

- 指定管理契約 10年以上（概ね10年～20年）
- 野外活動センターのリノベーションが必要
シャワー設備の設置、既設トイレの改修、河川敷に下りる道の整備 他
- 収支計画
収入 オートキャンプ利用料金（1サイト単位）
支出 人件費、施設維持管理費、廃棄物処理費、保険、修繕、地域交流費、他
※事業収益を施設魅力向上への還元方法・・・収益の一部をイベント費用に充当

【提案内容2】

犬山市野外活動センターの利活用計画

<第2弾の利活用概要>

- 近隣にある現在の農地や山林等エリア全体で里山体験ゾーンの検討をします。
- 栗栖地区の将来を見据えての賑わい創出のため、山林側にジップライン等のアドベンチャー施設も検討します。
- 第1弾の効果が発揮され、人が集まる流れが出来れば、関連の事業者（飲食・ショップ・住宅関連）の意欲が増幅し誘致の可能性がでてきます。

<第2弾の事業フレーム>

- 農業体験整備
- フォレストアドベンチャー施設
- 里山移住体験施設

<事業に係る課題>

- 既存のグラウンドゴルフ場の継続の可否
公認コースだが、今後どうしていくかの検討と決定が必要
- 河川敷への車両の乗り入れのための進入路・退出路の整備
スムーズな移動のため入口と出口は別々に設置が必要
- 里山エリア開発の可否
今後の施設拡大において、進め方など明確な方針が必要

【提案内容 2】

< 栗栖地区のまちづくり構想（イメージ図） >

豊富な自然資源に包まれたサステイナブル・コミュニティを目指して

● 環境主体のまちづくり（「栗山」を主軸の暮らしの拠点）

- 持続可能なエコ伊勢沼の活用（既に売地地権を格とした名所活用、活用前山等）
- 栗山地区、紅葉、紅葉ポイントなど自然資源活用、景観整備の社会的ニーズを応用
- 高齢社会の高齢・地球コミュニティの創出（注1）
- 歩いて楽しむ自然の活用（歩行者ネットワークの活用、グリーンロード・モビリティ）
- エコ・アウトライツ（30年以上の住宅を所有して権利者に譲渡した案とする）
- 道のまちづくり（道の駅や道の駅（道の駅）の活用を促し、まちづくりを推進する）

● 観光客との共生コミュニティ

- 環境学習
- キャンピング、バーベキュー
- 自然・文化・アウトライツ
- 観光客との共生・観光客向けサービス
- 丹波・北近畿の 集

栗山地区のまちづくり（注1）

環境学習（栗山地区）

栗山地区のまちづくり（注2）

栗山地区のまちづくり（注3）

栗山地区のまちづくり（注4）

栗山地区のまちづくり（注5）

栗山地区のまちづくり（注6）

栗山地区のまちづくり（注7）

栗山地区のまちづくり（注8）

栗山地区のまちづくり（注9）

栗山地区のまちづくり（注10）

栗山地区のまちづくり（注11）

栗山地区のまちづくり（注12）

栗山地区のまちづくり（注13）

栗山地区のまちづくり（注14）

栗山地区のまちづくり（注15）

栗山地区のまちづくり（注16）

栗山地区のまちづくり（注17）

栗山地区のまちづくり（注18）

栗山地区のまちづくり（注19）

栗山地区のまちづくり（注20）

栗山地区のまちづくり（注21）

栗山地区のまちづくり（注22）

栗山地区のまちづくり（注23）

栗山地区のまちづくり（注24）

栗山地区のまちづくり（注25）

栗山地区のまちづくり（注26）

栗山地区のまちづくり（注27）

栗山地区のまちづくり（注28）

栗山地区のまちづくり（注29）

栗山地区のまちづくり（注30）

【イメージ】

【提案内容2】

<犬山市の新たな観光資源の発掘>

- 犬山城をはじめ、古い町並みを再現しながら街歩き観光に成功している犬山市。
- 今後の成長のための一つの考えとして、木曾川の水運を生かした地域活性化策を計画し、他市では実施できないアクティビティを導入することによって、新たなターゲット層を獲得します。
- そのため、栗栖地区は、他の河川にはない河川景観と水量があり、アクティビティとして利活用できる可能性があります。

<提案① 木曾川にジェットボードを>

- ニュージーランド生まれのラフティングに新たなアクティビティ

木曾川にジェットボートを！！ ニュージーランド生まれのラフティングに次ぐ新たなアクティビティ

全国初 熊本県球磨川（球磨川と池田湖の2ヶ所）

JET-BOAT パワフルで走破性の高い、安全性に優れた高速艇 このボートには、プロペラがありません！ボートといえば、プロペラのスクリュウ回転で動くというイメージですが…ジェットボートにはプロペラは必要ないんです。それは、ウォータージェット・ユニットを搭載しているから！船底にある、ウォーターインテイクから水を吸い込み、ジェットユニットから一気に出す！そのときに発生する力（ジェット推進）で前に進みます。ニュージーランド産のこのアクティビティを、日本でも体感して欲しい。そんな思いで、球磨川ジェットをスタートしました！ニュージーランド生まれの、レジャーボート船体は、木やFRP（繊維強化プラスチック）の様な壊れやすい素材ではなく、すべてが「アルミ」で軽くて頑丈。浅い川でも30センチほど水があれば進める。プロペラを使わず、水を吸い込み一気に出して進む、ジェット推進を使ったボート。



(ご参考) KUMAGAWA Jet™



【提案内容 2】

＜提案② 木曾川ライン下り自治体観光協力事業・NEW木曾川ライン下り＞

○木曾川の13km（美濃太田から犬山橋下まで）を迫る岩の間を縫って下るスリリングな遊覧コース。この間は日本八景河川の部で第1位に選ばれ、雄大な河川美がドイツのライン川に例えられます。

多くの奇岩・怪岩をつり出し、轟々とした早瀬と鏡のような深淵の流れを壮快に下ります。熟練の船頭さん舵さばきは見事です。（ただし、2012年末に営業を終了）

